

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274200219		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館白井		
所在地	千葉県白井市西白井 3-14-9		
自己評価作成日	平成22年 1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ユニットレンド 株式会社		
所在地	千葉県柏市若葉町 3-3		
訪問調査日	平成22年 1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当たり前のことを当たり前！施設の常識ではなく、生活の常識を営んでおります。外食に行ったり、居酒屋へ呑みに行ったりと！年に1度は一泊旅行へも行っております。喜怒哀楽を共にして、明るく楽しく元気にをモットーに日々生活を送っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく・楽しく・生き生きとした生活が実在するグループホームである。建物は明るく・広く・ゆとりがある。職員が一体となり「決まり事を作らず当たり前のことを当たり前に行いたい」との姿勢で取り組み、当たり前で普通の家庭的な生活ができています。運営者は、本当に困っている人たち(社会的弱者)とどう関わっていくべきか！を常に考え、可能な限りの支援をしている。また、ホームは利用者のみならず若い職員一人ひとりが明るく生き生きとしていて、この仕事についた幸せと充実感を持って働いている。現在、社会的問題になっている介護職員の諸問題を感ぜさせないホームである。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・社内の決め事十則を掲げ、全職員が念頭におき理念の実行に前向きに取り組んでいます。	管理者・職員全員が基本理念や社内の決め事十則を共有し、全職員が理念に基づいた支援に取り組み、利用者が日常を普通に明るく楽しい生活を送れる実践に結びついている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のイベントの際は、地域の方を御招きし地域の老人会などに積極的に参加するなど、地域との繋がりを大切にしています。	事業所の夏まつり・おもつき等のイベントは、地域の有志の方を招くだけでなくとどまらず地域住民の楽しみな交流の場にまで発展している。また、こども110番も引き受け積極的に地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こども110番を引き受け地域との連携を常に図っています。夏祭りなどのイベントの際は地域の方々にも参加して頂き、認知症の方でも楽しく生活できることを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状として、運営推進会議が的確に行えておりませんので、今後取り組んでまいります。	事業所内では、評価への取り組みや話し合いは出来ていたが、管理者の移動で運営推進会議は中断しており、再開に向けて調整中である。	地域との結びつきは強く出来ており、声掛けにより実現可能とおもえる。ホームの更なる向上に活かす話し合いの場・意見交流の場の、早急な実現が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員や行政にて結成されている傾聴ボランティア、将棋ボランティアを招き、意見交換することによりサービス向上を努めています。又、中学生の職業体験の場としても提供しています。	介護相談員や定期的に招いている傾聴ボランティア・将棋ボランティアは、利用者の楽しみや生きがいになっている。また、中学生の職業体験の場としてホームを毎年提供し、体験した中学生からはお礼や感謝の手紙が届いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社理念に身体拘束は絶対に行わない。と掲げています。夜間以外の玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを全職員にて取り組んでいます。	「当たり前のことを当たりまえに」のケアを実践している。普通の生活を送るために「身体拘束をしないケア」に全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度のミーティングを行い、職員相互にて指摘を行い、的確な対応がなされるよう注意を払っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方は居りませんが、資料を用意し必要な際には閲覧できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、利用者や家族に納得して頂けるまで説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、利用者や家族の意見・要望に即座に対応できるよう取り組んでいます。又、ご意見箱を活用しケアの向上に反映させています。	苦情窓口は本部に設け、利用者家族が意見や要望を表せるように配慮していた。意見箱への利用者家族の投稿は少ないが、施設の取り組みの強い意思が伝わり、家族との交流の場で意見を聞く事が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の代表を交えた会議を行っている。意見を出し合い取り入れられる範囲にて反映している。会議以外でも提案あり次第、都度意見を聞く機会を設けています。	職員に対して代表者や管理者は「やってはいけない」と言わない。職員の自主性を尊重し取り入れることで、職員の責任感と生きがいを見つける指導は、全職員との意見の出し合い・提案の機会が活かされ反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての職員に対し、就業実績を作成しており、代表含め管理者はその能力に合わせた役を与えています。各職員は、向上できるよう役割を持たせて実行しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	早期育成を目的とし業務マニュアル化しています。又、3ヶ月に1回講師を招き、社内研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者への訪問は随時行い、その際に情報交換を行っているが、勉強会などの場は設けていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して相談出来る場を設け、その中でニーズの拾い上げを行い可能な限りニーズに沿って実行しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に段階では状況や経過観察を逐一家族に報告し、家族の要望を踏まえながら話し合いを重ね、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族が望んでいるサービスを早期に見極め、ニーズに答えられるよう介護計画を作成しています。又、話し合いの場や検討会も開催しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の個性や得意分野を活かしながら、共に支え合い時間を共有しています。本人から学んだり、わからない事は教えあったりと、良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のイベントや年に一度の一泊旅行には家族もお誘いし、気軽に参加して頂けるようしています。本人の事で相談があれば連絡を取り合い、共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には個別レクとして、積極的に外出し関係が途切れないよう努めています。	管理者・職員の努力と助け合いで、利用者の個別の要望に対応し支援している。利用者の生まれ故郷への墓参りや思い出の場所への旅などに職員が付き添い、個別のレクリエーションとして積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し職員が調整を図り、共に認め関わり、支え合えるように支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した場合でも、イベントなどに招き、関係を継続している。グループホームでの対応が難しい場合でも確実に入居者を支えていけるよう組織内で体制を確保しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の話を傾聴し、希望や意向の把握に努め、入居者の希望を尊重している。又、希望のくみ取りが難しい場合は、キーパーソンの意見も取り入れ本人本位に検討しています。	1対1で外出する個別レクリエーションは、話はずみ利用者の意向や思いをくみ取る良い機会となっている。個別レクのない利用者には日常の生活のなかで個々の話を傾聴し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との日常生活の会話の中から、これまでの生活歴を伺い、職員もそれを周知した上での対応に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活記録や申し送り帳を活用し、常に現状の把握に努めています。必要時には緊急ミーティングを行い、全職員にて支援方法を検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れ、又それに伴ってグループミーティングを開催し、介護計画に反映させています。	利用者毎の「いっしんたより」を毎月発行し、利用者一人ひとりの状況を丁寧に家族に伝え、課題の共有化を図っている。状況を共有している為、本人・家族との話し合いがスムーズに行われ、現状に即した介護計画の作成に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間共に個々の生活記録を記入しています。その他周知事項があれば、申し送り帳を活用し情報共有をしています。介護計画において最も重要な本人の意について細かく記入し、全職員が把握しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の支援に着目し、個別レク等を通じてニーズの実現をしています。また、当事業所は、グループホーム・有料老人ホーム・介護付高齢者賃貸住宅の3本柱になっており、身体状況に応じた対応を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人ニーズに合わせたボランティアや定期的なボランティアや介護相談員を受け入れ、外部からの情報なども取り入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/2週 全入居者往診にて診察を受け、本人及び家族の意向を伝えている。又、日々の生活状況などDrに伝え適切な医療の提供に努めています。	入居者は月2回Drの往診を受け、本人・家族の意向を伝えている。事業所もDrとの関係を築き利用者が適切な医療を受けられる支援をしている。	利用者毎の「いっしんたより」に、往診を受けた利用者の状況・状態・医師の説明をも記入することで、家族とのさらなる信頼関係の構築を希望する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員からの申し送り帳、健康管理記録を用い、看護・介護と情報間の共有を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは、頻度多く面会に行くことで入居者の状況を把握し、退院に向けてのDrとのムンテラを早期に行っています。又、家族にも報告・連絡・相談を行い、連携をはかっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入居時や状態が重度化した場合に本人・家族の意向を確認しています。その後意向に沿って担当Dr、家族と連携をとりながら、その人らしい生活を送って頂けるよう支援しています。	ケースバイケースで早い段階で本人・家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明して方針を共有し、Dr・家族と連携し支援をしているが、グループホームの在り方として積極的には行わない方針を持っている。	本人・家族の希望は増加傾向にあるが、他の利用者のこと、職員のこと等を考え非常に悩んでいる。これからもケースバイケースで関係者と話し合いを重ね、この問題から逃げずに取り組まれることを希望する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を終了しており、的確に対応出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を通じ、災害時の対応方法を訓練しています。また、近隣住民の方々にも理解を頂き、協力していただけるよう関係づくりを行っています。	年2回の訓練を通じ、利用者・職員は災害時の対応を訓練している。また、近隣住民との良い関係づくりにも努めている。	運営推進会議を密に開催することで、地域や近隣住民とのきめ細かな協力体制の構築に結びつけることの一助になるであろう。

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人にあった対応や言葉掛けを行い、人格・尊重を大切にしています。	人格・生活すべてにおいて、一人ひとりを尊重し大切にしたい対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共に喜怒哀楽をする事で信頼関係を築き、感情の表出を出せるよう、支援しています。その中で決定権は入居者本人と決め、決定が難しい場合のみ助言しながら決定出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間を決めるのではなく入居者に合わせたペースでその都度対応し、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物などの機会を大切にし、職員と入居者が共に購入する事で、おしゃれを楽しむ機会を設けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作る楽しさ・見る楽しさ・味合う楽しさ・片付けの楽しさそれぞれを共に行う事で、楽しさを提供し、分かち合っています。	利用者一人ひとりが、その時々に関心を持ち場を決め手伝っている。利用者と職員がひとつの家族のように楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に伴った食事形態、水分など確保し、摂取量など全職員が把握出来るよう、健康記録表へ記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状態や意向に合わせ介助・声掛けを行っています。週1回の歯科往診があり、その都度指導を頂き的確に口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し気持ちよくトイレで排泄出来るよう支援しています。紙オムツ使用者は入居者にとってやむ得ない場合のみにし、排泄意識がなくてもトイレへ座って排泄できるよう、取り組みを行っています。	利用者の排泄パターンや力を把握し、一人ひとりを尊重し自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症・高齢者の方に便秘が及ぼす影響を全職員が理解しています。まずは薬に頼らず、食事の工夫や適度な運動から便秘解消を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を一切決めておらず、入居者様の希望通りに入浴して頂いています。	入浴日や入浴時間を決めず、利用者一人ひとりの希望通りの入浴支援をしている。日誌に入った日・入った時間を記入し利用者同士のトラブルにならないよう、また、一人ひとりの清潔面も把握した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	晴れた日は布団干し・換気を毎日行い、休息しやすい環境を整えています。又、ソファやコタツ・和室スペースを用意し休息できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の連携を密に図り、職員1人1人が薬の効能や副作用を理解しています。又、薬についての重要性を肝に銘じ、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持って生活して頂いています。また、嗜好に関しては、居酒屋を開催したり、自由に喫煙できる環境を整えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月のレクリエーションの他に日常的に外出や散歩、ドライブや買い物を行っています。又、普段行けないような場所でも本人の希望に沿って、個別レクリエーションなどを行っています。	月例のレクリエーションの他、日常的に外出・散歩・ドライブ・買い物・外食を行っている。また、毎年家族同伴で一泊の温泉旅行を実施している。個別レクとして一人ひとりの希望に応え(家族と相談して)、コンサート・墓参り等も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人希望や力に応じて本人が管理し、支払いを行っています。又、管理が難しい場合は、買い物時の支払いのみを行って頂いているケースもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時自由に使用して頂いています。番号が押せない場合などは職員がお手伝いし自由に会話を楽しんで頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションの写真等を掲示し、アットホームな空間作りをしています。又、子供っぽくならないようお年寄りの目線に合わせた空間作りに努めています。季節や日々の移り変わりを感じられるよう、冬はコタツ、夏はすだれ等設置しています。	ゆとりある共有の空間はアットホームな生活環境が作られ、生活感や季節感を感じながら一人ひとりが思い思いに居心地良く楽しんで過ごしている。和室に設置されたコタツでは将棋を楽しんだり、利用者が眠れない時は夜勤担当職員との快適な居場所としても利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやコタツ、別スペースに和室があり自由に利用出来るようにしています。又、和室にはテレビも設置し思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇など自由に持ち込んで頂き、本人が安心して居心地良く過ごせるよう支援しています。	一人ひとりの生活と希望を大切に自由に持ち込んでいる。赤い家具に囲まれた居室、アイドルの写真でいっぱいの居室など生活を楽しんで過ごせるような支援をしている。「決まり事を作らず当たり前のことを当たり前に行いたい」という事業所の取り組みが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全バリアフリーになっており、全体に手すりを設置しています。トイレや浴室も車椅子の方が使用出来るよう、幅広く設計しています。自尊心を損なわないようトイレがどこか迷わないようさりげなく分かる工夫等もしています。		